

学習状況診断票(社会) 中学校 第1学年  
1年 組 番 氏名

領域	問題番号			出題の意図	評価の観点			
	大問	小問	通番		思考・判断	観察・資料活用・表現	知識・理解	
地理的分野	1	1	1	地球上の位置関係を表すために使われる緯度や経度について、地図上だけでなく、地球の断面図上や地球儀などを活用してとらえることができる。				
		2	2	15度で1時間の時差ができる基本的な仕組みを活用し、明石とカイロの時差を計算して求め、さらに地球の自転の向きを考えることで、カイロの現地時刻について求めることができる。				
		3	3	正距方位図法を活用して、地図の中心に位置している東京から最も遠くに位置する都市を読み取ることができる。				
	2	1	4	岐阜県の農業についての特色を、表やグラフをもとに考えることができる。				
		2	5	調査した数値をグラフに示すことで、地域の特色を表現することができる。				
	3	1	6	八方位を用いて、ある地点から見た別の地点の方位を正しく理解している。				
		2	7	地図記号を読み取り、土地の利用状況を正しく理解している。				
		3	8	縮尺の意味を理解し、地形図上のある地点からある地点までの直線距離から実際の距離を地形図のスケールや定規などを用いて求めることができる。				
		4	9	等高線を読み取り、断面図として表現することができる。				
	4	1	10	与えられた情報を手がかりとして、実際に略地図に書き表すことができる。				
歴史的分野	5	1	11	年表を読み取る基本事項として、時代区分について理解している。				
		2	12	各時代の主な出来事や資料から、時代の特色をつかみ、時代の流れを判断することができる。				
		3	13	「世紀」について、正しく理解している。				
		4	14	遣唐使の停止をきっかけにして、平安時代の文化が国風化していったことを考えることができる。				
		5	15	時代の特色を示すことがらや代表的な資料(十七条の憲法)について、その内容を読み取ることができる。				
		6	16	鎌倉時代の人々の生活の様子について、他の時代の特色とのちがいを考えて、判断することができる。				
		7	17	豊臣秀吉が城を築き、全国統一の本拠地とした大阪府について、地図上でその位置を正しく理解している。				
	6	1	18	各時代の様子を示す文化財から、室町時代の代表的な文化財を選び、その特色を理解している。				
		2	19	南蛮文化が桃山文化に影響を与えたことを理解している。				
	7	1	20	奈良時代には、一般の人々の中には様々な税の負担から逃れるために、逃亡するものも現れたことを、二つの資料を関わらせながら、キーワードを活用して適切に説明することができる。				
						/6	/7	/7

今後の学習に向けて 自分が頑張りたいところに を付けたり、下線を引いたりしましょう。

「思考・判断」の力を身に付けるために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフや資料から分かることをはっきりさせ、課題を解決するためにそれらをつないで考えるようにしましょう。</li> <li>・「できごとがおきた要因」や「その影響、社会の様子や変化」などを常に考えることを大切にしましょう。</li> <li>・家庭においては、学校で学習した内容をもとに、歴史の移り変わりから今の生活を見つめたり、さまざまな地域と身近な地域を比較したりして、自分が考えたことをまとめてみましょう。</li> </ul>
「観察・資料活用・表現」の力を身に付けるために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図や資料などを活用するときは、「タイトル」「単位や項目」「資料中の大事な言葉」「資料の中の人々の様子」などの視点から読み取るようにしましょう。</li> <li>・自分で略地図を書いてみたり、できごとと時代の特色を示す年表をつくらしたりするなど、地図化、資料化することに取り組んでみましょう。</li> <li>・家庭においては、ニュースや新聞等で見たり聞いたりした地名や歴史的な出来事を、地図や地球儀、年表等で調べて、その位置や意味を確認しましょう。また、外出する際、地図を活用して、目的地までのルートや距離を確認することに挑戦してみましょう。</li> </ul>
「知識・理解」の力を身に付けるために	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年表や時代の特色を示すカードなどをつくり、その時代の様子や、その時代を生きた人の姿などを明らかにして、歴史の大きな流れをつかんでいくように努力しましょう。</li> <li>・家庭においては、休日などに博物館や調べてみたい場所に行き、実物、具体物など多様な資料に親しんだり、人とふれあったりしてみましょう。また、新聞記事やテレビの映像、インターネットなども活用し、興味・関心をもったテーマについて進んで調べてみましょう。</li> </ul>